

第73回学術集会 委員会企画（シンポジウム）演者公募 企画趣旨

U40/ITF(Interactive Task Force)WG

企画名	麻酔科医のワークライフインテグレーションを考える		
企画責任者	U40/ITF(Interactive Task Force)WG：メンバー：中森 裕毅		
講演形式	シンポジウム（120分）		
企画案詳細			
座長・講演者名	役割	持ち時間	タイトル
中森 裕毅	座長	5分	イントロダクション：Work-Life Integration総論
河野 裕美	座長	5分	子育て麻酔科医の日々の現実と課題(仮)
紙谷 義孝	演者	15分	働き方改革の中での麻酔科学講座のあり方 ー子育て教授の奮闘ー(仮)
間嶋 望	演者	15分	ペインクリニック専門医と母親の立場からこどもの痛みを考えるーこどもの痛み外来でのアプローチー（仮）
白川 賢宗	演者	15分	私生活上の経験を活かした緩和医療(仮)
荒木 優子	演者	15分	勤務医の妊娠・出産・育児に関する法制度の利用とその課題
公募1-2名を想定	演者	15分	
総合討論		35分	
企画趣旨（600字以内）			
「ワークライフインテグレーション」という言葉は、「ワークライフバランス」と同義で用いられることもありますが、本シンポジウムでは、両立させるために仕事もしくは私生活をセーブせざるを得ないという印象を与えるワークライフバランスとの違いを意図し、仕事と私生活の相乗効果の期待をこめてワークライフインテグレーションという表現を使用します。 典型的な妊娠や子育てに限らず、誰しもが予期せぬ自身や家族の疾病など様々な理由によりいわゆるフルタイム勤務ができなくなる可能性があります。ライフステージ上の課題を単に「仕事の足かせ」と捉えるのではなく、私生活上の種々の経験が麻酔科医としての成長に資するものと考え、ワークライフインテグレーションに着目します。 実際には、私生活の状況により仕事に費やせる時間や体力に制限があり、周囲への配慮に悩んだり麻酔科医としてのスキルアップをあきらめている麻酔科医は少なくありません。しかし、私生活での経験はネガティブな面だけではなく、むしろ麻酔科医としての活動にプラスに転じ得ると、前向きに認識してもらえることを願って本シンポジウムを企画しました。ワークライフインテグレーションを実践する当事者、部門長、社会制度など多面的な視点から議論します。 どのような状況にある麻酔科医であっても成長し活躍することで、社会のインフラともいえる麻酔科医の質や量の底上げとなることを期待しています。			
公募講演に期待すること・応募者に求める経歴・資格（800字以内）			
公募講演タイトル：	(演者の方がご設定ください)		
公募講演の主旨：	ライフステージ上の経験が麻酔科医としての活動に活かされる例として、自身や近親者の疾病・介護を経験することで、手術に臨む患者やその家族の気持ちにより深く寄り添うことができ、術前の限られた時間の中で信頼関係を構築し、不安を和らげる力が養われる可能性があります。また、子育てを経験することで、小児症例への苦手意識が軽減されることもあるでしょう。さらに、ペインクリニックや緩和医療の分野では、自身や家族の痛み・苦しみを経験することによって、より全人的で共感的な患者対応が可能になるといった点も考えられます。 こうした事例に限らず、ご自身の私生活における経験が、麻酔科医としての臨床・教育・研究に活かされている事案、あるいはそこに至るまでに直面した課題について、広く公募いたします。座長はU40ワーキンググループメンバーが務めますが、演者はU40世代に限定いたしません。 一方で、ワークライフインテグレーションを支える働き方やキャリア形成の視点は重要ですが、ともすると権利の主張に偏り、時間外勤務や緊急呼び出しを担うフルタイムの麻酔科医との分断を生むことにもなりかねません。そのため、ワークライフインテグレーションを実践する麻酔科医の同僚の方や、管理者の方からも、組織としての工夫や課題についてご講演いただければ幸いです。 なお、すでに上記4名の方々を指名演者として予定しております。同じ領域であっても施設や個人によって実情は多様であり、それぞれに独自の課題や工夫があると想定されますので、テーマとしては重複が想定される場合であっても歓迎いたします。 シンポジウムの後半では、会場参加者も含め広く総合討論を行いますので、そちらにもご参加いただきます。		
演者に必要な条件：(経歴・資格など)	ワークライフインテグレーションを実践する当事者もしくは同僚もしくは部門長の方		

※現時点では企画案につき、今後企画の中止・変更となる場合がございます。

企画の採択は2025年7月末を予定しています。